

ヒューマンエラーは、なぜ起きる？



だれの責任か？ではなく、どうすれば防げたのか？

人は人であるがゆえに、ヒューマンエラーをなくすことはできません。しかし、「なぜ、エラーは起きるのか？」など、人間特性の理解が対策の第一歩となり得ます。そして、背後にある「誰でも共通して陥るであろう要因」を探り出して、連鎖するエラーチェーンを切る対策を講じていくことが重要です。筆者の航空業界の経験から、明日の業務にすぐに活用できる「ヒューマンエラー対策」を紹介します。

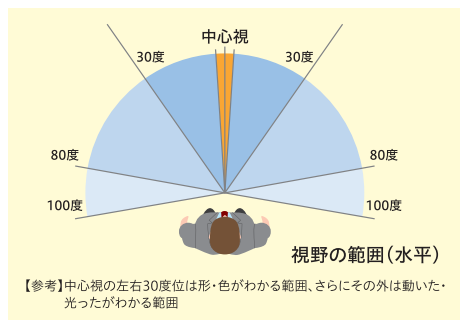
このような、ヒヤリとした経験はありませんか？

事例 ①

運転中、反対車線の乗用車同士の事故に気を取られてしまい、目線を元に戻した瞬間、自車線上で減速していた前方車両に追突しそうになった。

原因 「中心視」で見えていなかった

人間は、左右100°位の範囲まで見えてはいますが、正確にものが見える範囲は「中心視」と呼ばれる視野の中心の僅か2度の範囲だけです。



対策

中心視で道路前方を見て、
車間距離を確保する

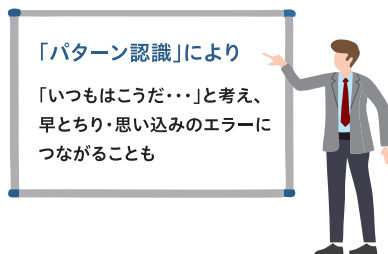
「見落とし」と「見間違い」を防ぐために、わき見をせず前方を中心視で見て、適切かつ余裕のある車間距離を保ちましょう。

事例 ②

交差点において、前方車両がそのまま左折すると思い込み、続けて左折しようすると、前車は歩行者に気づき左折の途中で停止。慌ててブレーキを踏んだ。

原因 「パターン認識」による思い込み

人間は、過去の経験や知識による記憶パターンから、瞬時に何であるか認識できる「パターン認識」という優れた機能を持っています。しかしこの機能は、時に自分に都合の良いように情報を補ったり、除去したりして認識することがあります。



対策

ブレーキペダルに足を置き
「かもしれない運転」を

交差点進入時は、すぐに停まれるようにブレーキペダルに足を置き、危険を予測する「かもしれない運転」に努めましょう。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「できることから始めよう！トラック追突事故防マニュアル 追突事故撲滅キット／交差点事故撲滅キット」

山崎 弘雅（やまざき ひろまさ）

ANAビジネスソリューション株式会社 参与。全日本空輸株式会社に整備士で入社し、一等航空整備士として勤め、安全推進や統括を歴任。現在はヒューマンエラー対策研修の講師として活躍中。